

《薬局サーベイランスコメント》

『第 51 週（12 月 19 日～12 月 25 日）の推定患者数は急増したが、今後 2 週間の患者数は横ばいかもしくは減少する可能性がある』

2016 年 12 月 27 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2016/2017 年シーズン）の 2016 年第 51 週（12 月 19 日～12 月 25 日）の全国のインフルエンザ推定患者数は、薬局サーベイランスによると 331,041 であり、前週（第 50 週）の推定値（192,913）よりも 10 万人以上増加しました。第 33 週以降 19 週間連続して増加が続いていて、薬局サーベイランスが開始された 2009 年以降の季節性インフルエンザの同時期の動向としては 2014/2015 年シーズンの次ぐ値となっています（図 1）。一方、休日明けの第 52 週（今週）の月曜日（12 月 26 日）の推定患者数は 88,130 と前週の月曜日の値 67,060 よりも更に増加していますが、インフルエンザの罹患率が高く、流行の中心である年齢層の大半が通う学校・幼稚園は冬季休業に入っているため、今後 2 週間（2016 年第 52 週～2017 年第 1 週）の患者数は横ばいかもしくは減少する可能性があります。

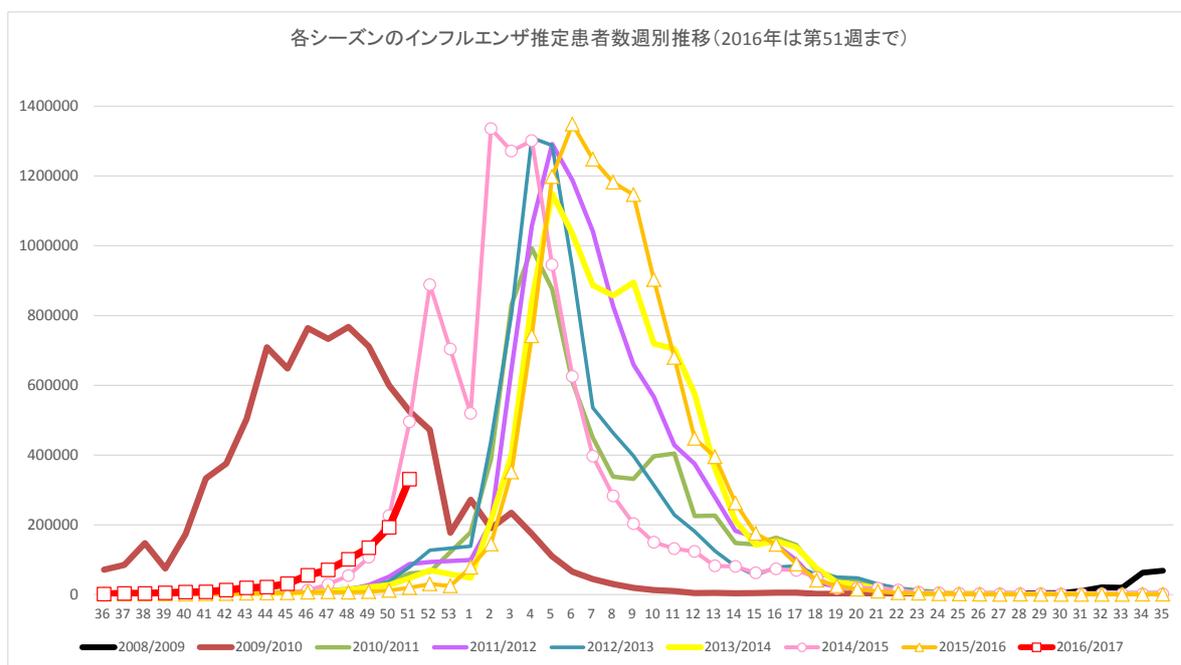


図 1. 過去 6 シーズンと今シーズン（2016/2017 シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第51週の人口1万人当たりの1週間の推定患者数をみると、福井県、北海道、栃木県、富山県、秋田県、岐阜県、奈良県、群馬県、東京都、埼玉県、広島県、神奈川県、兵庫県、香川県の順となっています。岩手県、山梨県を除いた45都道府県で前週よりも増加が見られており、特に関東地方では大半の地域が全国平均値を上回っています。

2016年第36週から第49週までの累積の推定患者数は997,594であり、日本の人口推計値(2016年11月1日現在、1億2695万人)で換算すると、累積の罹患率は0.79%となります。年齢群別では10～14歳(2.66%)、5～9歳(2.49%)、15～19歳(1.62%)、0～4歳(1.42%)、20～29歳(0.80%)、30～39歳(0.76%)、40～49歳(0.68%)、50～59歳(0.56%)の順となっていて、特に5～14歳の年齢群がインフルエンザ流行の中心となっています(図2)。

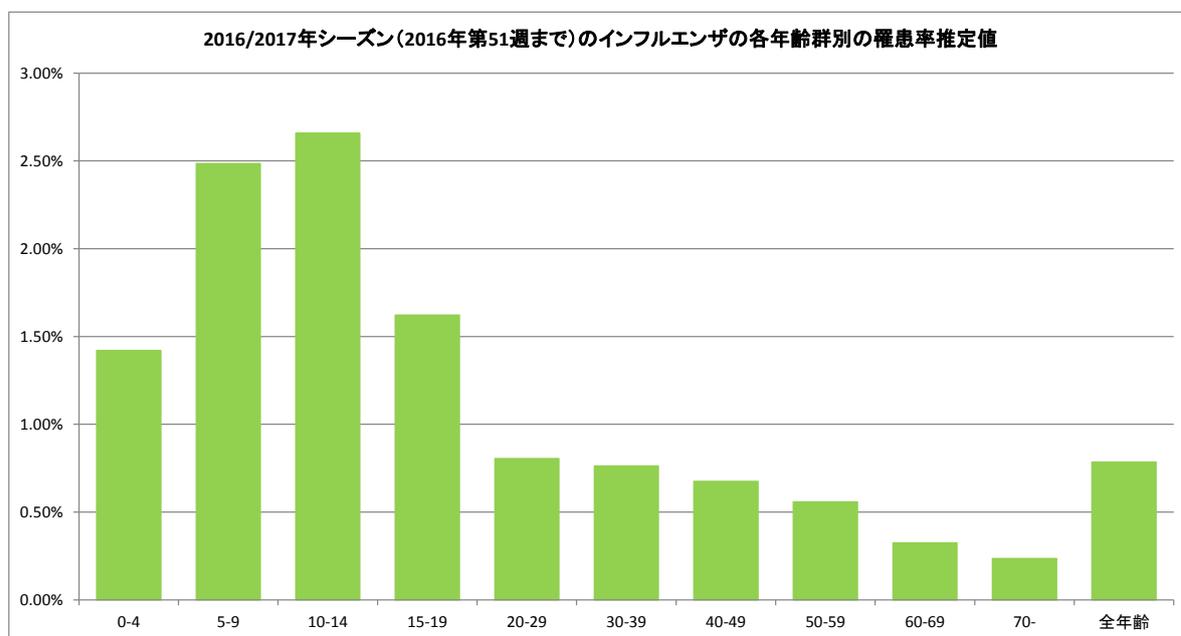


図2. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値(2016年第36～2016年第51週)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(503検体解析)は、A/H3(A香港)亜型が86.7%と大半を占めており、次いでA/H1pdm 11.3%、B型2.0%の順となっています。

今シーズンのインフルエンザ流行の立ち上がりは2014/2015年シーズンに次ぐ水準

となっておりますが、冬期休暇によって今後2週間の患者数は横ばいかもしくは漸減し、1月の第2週以降に本格的な流行となっていくと予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生の推移には注意が必要です。